

表 令和7年10月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第102～110号	1日、6日、10日、13日、17日、20日、24日、27日、31日 16時00分	南岳山頂火口で噴火活動継続。噴火、噴煙、火映、火山性地震、微動の発生状況。火山ガス(二酸化硫黄)放出量は2700～3600[t/日](9/29, 10/16)で非常に多い。17日の現地調査で地熱域に特段の変化はない。GNSS観測で、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)を挟む基線で地下深部の膨張を示す長期の緩やかな伸びがみられる。始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられ、今後の火山情報に注意。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	2日 17時27分 20時31分	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第94～97号	3日、6日、10日、13日 16時00分	噴火はなく噴煙を観測。10日に韓国岳から現地調査を実施、西側斜面の割れ目付近で引き続き地熱域を確認。火山ガス(二酸化硫黄)放出量は100[t/日](1日)でやや少ない。火口直下の火山性地震は増減を繰り返し多い。短い火山性微動を2日に観測。傾斜計では新燃岳地下の膨張を示すような特段の変化はない。GNSS観測で霧島山を挟む一部の基線で、深部の膨張を示すわずかな伸びは7月上旬頃から停滞。火山活動は活発。火口から概ね3kmの範囲で大きな噴石などに警戒。
		火口周辺警報	17日 11時00分	9月8日以降噴火は観測されていない。火山ガス(二酸化硫黄)放出量、周辺の傾斜計、GNSSの観測状況。火山活動に低下傾向が認められ、火口から2kmを超えて影響する噴火の可能性は低くなった。一方、火口直下の火山性地震が多い状態で、引き続き大きな噴石が火口から概ね2kmまで、火砕流が概ね1kmまで達する噴火の可能性はある。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第98～100号	17日 11時10分 20日、27日 16時00分	火山ガス(二酸化硫黄)放出量は、100～200[t/日](1, 14日)でやや少ない。監視カメラで9月8日以降、噴煙及び周辺の地熱域に特段の変化はない。GNSSで霧島山を挟む一部の基線で、3月頃から霧島山深部の膨張を示すわずかな伸びが認められたが、7月上旬頃からは停滞。火口直下で火山性地震が多い状態。火山活動が高まった状態で、引き続き、大きな噴石が火口から概ね2km、火砕流が概ね1kmまで達する噴火の可能性はある。
		解説情報 第14～24号	1日、3日、6日、10日、13日、17日、20日、24日 16時00分 25日 14時57分 27日、31日 16時00分	ボンマチネシリ96-1火口の噴煙は引き続き量が多い。25日13時17分頃に噴火が発生し、同日15時20分頃に停止した。大きな噴石の飛散は確認されていない。9月12日の火山性微動に伴い発生した火口方向が上がる傾斜変動は、その後も緩やかに継続し、ボンマチネシリ火口浅部では膨張した状態。同火口付近の地震活動は、9月中旬に増加して以降次第に減少し概ね少ない状態。火山性微動は9月12日以降は発生していない。火山活動は活発で噴火が発生する可能性があり、ボンマチネシリ火口から約500mの範囲で大きな噴石に警戒。
雌阿寒岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第14～24号	1日、3日、6日、10日、13日、17日、20日、24日 16時00分 25日 14時57分 27日、31日 16時00分	ボンマチネシリ96-1火口の噴煙は引き続き量が多い。25日13時17分頃に噴火が発生し、同日15時20分頃に停止した。大きな噴石の飛散は確認されていない。9月12日の火山性微動に伴い発生した火口方向が上がる傾斜変動は、その後も緩やかに継続し、ボンマチネシリ火口浅部では膨張した状態。同火口付近の地震活動は、9月中旬に増加して以降次第に減少し概ね少ない状態。火山性微動は9月12日以降は発生していない。火山活動は活発で噴火が発生する可能性があり、ボンマチネシリ火口から約500mの範囲で大きな噴石に警戒。

令和 7 年10月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 42～46 号	3 日、10 日、17 日、24 日、31 日 16 時 00 分	2 日に山頂から西約 7 km 付近で M3.0 の地震が発生、八幡平市で震度 1 を観測。他の観測データに変化はない。 17 日の現地調査で、姥倉山周辺の噴気や地熱域に特段の変化はない。黒倉山付近の微小な火山性地震は 8 月上旬以降少ない。傾斜計やひずみ計、GNSS 観測で 2024 年 2 月頃からの山体深部の膨張を示す変動は緩やかに継続。 JAXA「だいち 2 号・4 号」のデータ解析(国土地理院)で、大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺に衛星に近づく変動が見られる。大地獄谷周辺の変動はごく浅部の膨張と考えられる。 引き続き、西岩手山(大地獄谷・黒倉山から姥倉山)の想定火口から概ね 2 km 範囲に影響する噴火の可能性がある。
草津白根山 (白根山(湯釜 付近))	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 66～83 号	1 ～ 8 日、10 日、13 日、15 日、17 日、20 日、 22 日、24 日、27 日、29 日、31 日 16 時 00 分	湯釜付近で火山性地震が増減を繰り返し発生。傾斜計で昨年 6 月頃から地下浅部の膨張を示す緩やかな変動、噴気の化学成分比に同年 6 月頃から活発化を示す変化、全磁力連続観測で今年に入り湯釜付近地下の温度上昇を示唆する変化が認められる。火山活動が高まり湯釜火口から概ね 1 km 範囲に影響する噴火の可能性がある。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 79～87 号	3 日、6 日、10 日、13 日、17 日、20 日、24 日、 27 日、31 日 16 時 00 分	火山性地震は 2024 年 4 月中旬以降増加した状態。同 3 月中旬からの山体西側の膨張を示す傾斜変動は 5 月以降は停滞。火山ガス(二酸化硫黄)放出量は 100 ～ 300[t/日](9/30, 10/21, 28)、2023 年 3 月以前より多い。火口から概ね 2 km に影響する噴火の可能性がある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 40～43 号	6 日、13 日、20 日、27 日 16 時 00 分	白色の噴煙と夜間に時々高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない。 長期的に熱活動や噴煙活動が高まった状態。火口周辺に影響する噴火の可能性あり。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 42～45 号	6 日、13 日、20 日、27 日 16 時 00 分	御岳火口で噴火活動継続。噴火、爆発、噴煙、火映の状況。大きな噴石は確認されなかった。集落(火口から南南西 3.5 km)で降灰(村役場出張所による)。火口付近浅部の火山性地震は少ない。主に島の西側の火山性地震は 3 日と 19 日に一時的に増加。最大震度 2 を観測。中長期的には 2024 年 10 月頃から増加傾向が認められる。火山性微動は断続的に発生。これらの地震で噴火活動に特段の変化はない。 GNSS では 2024 年 10 月以降、島の西側やや深部でマグマ蓄積量増加を示すわずかな変動が認められる。ナベタオ(火口から南西約 2.2 km)の傾斜計で、6 月下旬からマグマだまり方向が隆起する変動がみられる。 長期に噴火活動が継続し御岳火口周辺で大きな噴石飛散の可能性がある。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から 1 時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	2 日 14:56, 3 日 06:53, 09:14, 15:13, 21:12, 8 日 22:10, 9 日 03:16, 07:58, 09:18, 15:20, 22 日 06:44, 07:14	噴火発生から 6 時間先まで(1 時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。

注 1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注 2) 雌阿寒岳、岩手山、草津白根山(白根山(湯釜付近))、浅間山、霧島山(新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報(定時)を発表している。